

公開特許公報

昭53—32258

⑫Int. Cl.  
E 05 D 7/04

識別記号

⑬日本分類  
53 E 16

庁内整理番号  
6679—31

⑭公開 昭和53年(1978)3月27日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑮蝶番装置

⑯特 願 昭51—107381  
⑰出 願 昭51(1976)9月7日  
⑱発 明 者 長尾員正

門真市大字門真1006番地 松下  
電器産業株式会社内  
⑲出 願 人 松下電器産業株式会社  
門真市大字門真1006番地  
⑳代 理 人 弁理士 中尾敏男 外1名

明 細 書

1、発明の名称

蝶番装置

2、特許請求の範囲

固定金具と、この固定金具にピンを挿通させて着脱自在に枢結した可動金具と、上記両金具間に介在させたスペーサとからなり、上記両金具を枢結するピンの途中には鉤部を設けるとともに、スペーサでは上記ピンを貫通させる長孔を設け、この長孔の複数箇所に前記ピンの鉤部が支持される段支持部を設けてその段支持部の高さをそれぞれ異ならせてなる蝶番装置。

3、発明の詳細な説明

本発明は扉などを開閉自在に取付ける蝶番装置に関し、蝶番金具を本体などから取外すことなく上下の調整ができ、かつ着脱も簡単に行なえるようにすることを目的としたものである。

一般に蝶番装置は一对の蝶番金具を枢結して構成しており、その各蝶番金具を本体ならびに扉などに取付けると、その取付位置をかえないかぎり

上下の調整ができず、使い勝手が悪かった。すなわち、一度扉などを取付けた場合、第7図に示すように扉A、Aに不一致が生じて簡単に調整できず、極めて不便なものであった。

本発明はこのような欠点を解消するもので、以下その一実施例を図面とともに説明する。

図において、1は調理台本体、2はその扉で、蝶番装置3によって調理台本体1に取付けてある。以下その蝶番装置3を第2図～第6図にしたがって説明すると、4、5は略L字状の固定金具で、透孔6およびビス止め用8を有し、あらかじめビス7によって、本体1に固定してある。ここで下方の固定金具5には上記透孔6ならびにビス止め用孔6'のほかにもう一つの孔8が形成してある。9、10は上記固定金具4、5と対をなす可動金具で、ビス11によって扉2に取付けてあり、ピン12、13を前記透孔6、6'に嵌挿して回動自在としてある。そして下方の可動金具10のピン13には途中に鉤部14を設けて段部が形成してある。15は上記下側可動金具10と固定金具5

との間に介在させた回転スペーサで、略正三角形状に形成してあり、その下面中央部に突設した割ピン16を前記固定金具5の孔8に嵌合させて回転自在としてある。そして割ピン16を中心として回転させた時、固定金具5の透孔6と対向する部分に前記ピン13が嵌合する長孔17が形成してあり、この長孔17の適所にピン13の銑部14が係当する孔径の異なる段支持部18, 18', 18"が設けてある。この段支持部18の高さはそれぞれ異ならせてあり、銑部14を支持する高さが変わるようになっている。また上記回転スペーサ15は樹脂等の滑りのよい材料で形成してある。

上記構成において、まず扉2の取付けを説明すると、この扉2は第3図矢印イで示すように上可動金具9のピン12を上固定金具4の透孔6に嵌挿した後、同図矢印ロで示すように扉下部を横方向に移動させ、下可動金具10のピン13に嵌挿した回転スペーサ15の割ピン16を下固定金具5の孔8に嵌挿するとともにピン13を透孔6に嵌挿して取付けを完了する。

次にその上下調整について説明すると、扉2を持ち上げることによりピン13の銑部14が回転スペーサ15の上面にくる。よって回転スペーサ15を、割ピン16を軸として第6図に示す矢印方向に回転させると、溝19がピン13にそって移動し、高さの異なった段支持部18, 18', 18"の一つに一致した時点で扉2を下げれば、ピン13はその銑部14がこの段支持部の一つに支持され、扉2が上下に移動する。したがって扉の上面を一致させて取付けることができなくても、扉2を外すことなく調整することが可能である。なお割ピン16を挟めて回転スペーサ15を持ち上げると、この割ピン16が固定金具5の透孔8より外れるので本体1から扉2を外すこともできる。

このように本発明の乗番装置によれば、乗番を被取付体に取付けた後そのまま上下に調整することができ、加えて着脱も簡単に行なえるなど、その価値は大なるものがある。

#### 4、図面の簡単な説明

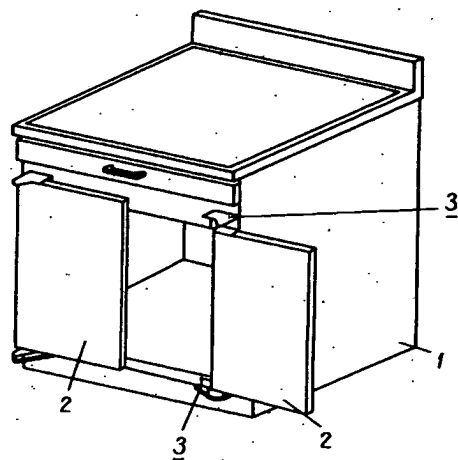
第1図は本発明の一実施例における乗番装置を

用いた家具の斜視図、第2図はその乗番装置の拡大斜視図、第3図は同分解斜視図、第4図は同断面図、第5図は可動金具とスペーサとの関係を示す斜視図、第6図は同平面図、第7図は従来例を示す正面図である。

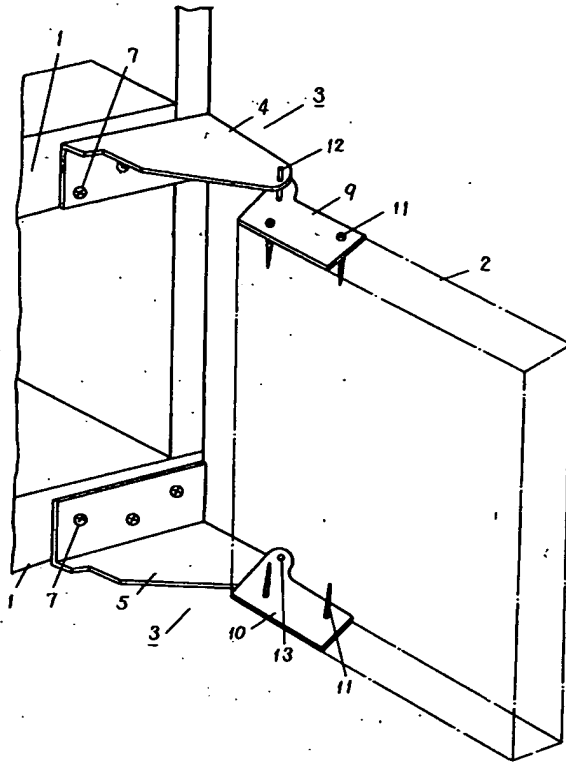
5 ..... 固定金具、10 ..... 可動金具、13 ..... ピン、14 ..... 銑部、15 ..... スペーサ、17 ..... 長孔、18, 18', 18" ..... 段支持部。

代理人の氏名 弁理士 中 尾 敏 男 はか1名

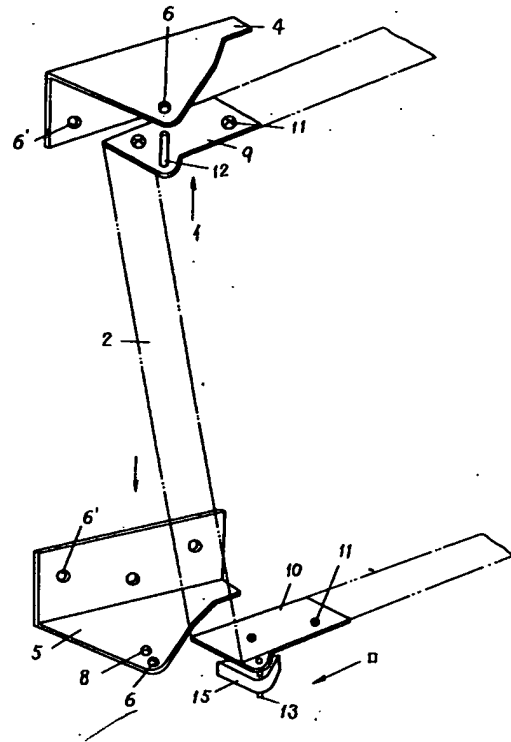
第 1 図



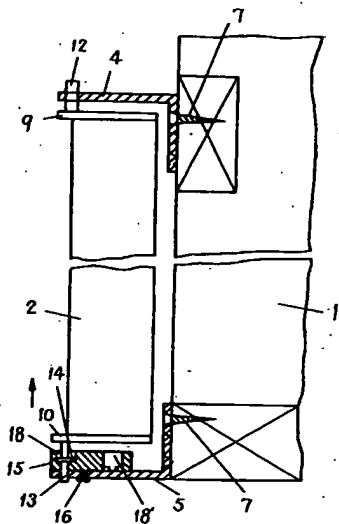
第 2 回



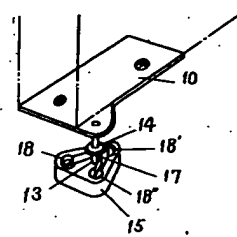
### 第 3 圖



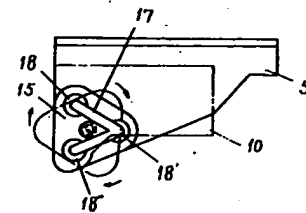
第 4 階



第 5 圖



第 6 圖



第 7 圖

